

II-C-15

小児の嘔吐に対する五苓散坐薬の有効性について

—第2報 補中益気湯坐薬との二重盲検法—

愛知県厚生連愛北病院小児科、薬剤部^{*}

○吉田 政己、溝口 文子、水野 淑子、佐藤 眞幾^{*}、前田 正雄^{*}

はじめに：われわれは先にツムラ五苓散坐薬の基礎的検討と有効性について報告した。今回ツムラ補中益気湯の坐薬を対照薬として作成し、小児の嘔吐に対する有効性を二重盲検法にて比較検討した。

対象及び方法：対象は愛北病院小児科受診中の患児で嘔吐が24時間以内に3回以上みられた症例で、受診時にも嘔吐、吐き気がみられる例とした。下痢の有無は考慮しなかった。便の状態によっては浣腸を行っても可とした。方法は家族に同意を得た後、ナンバリングした坐薬を無作為に選び、患児に挿入した。効果判定は前回同様坐薬投与後30分に水分を投与し、嘔吐、吐き気の有無により判定した。

結果：今回対象となった患児は、男21名、女13名（計34名）であった。年齢は1-9歳（平均 3.9 ± 2.1 歳）であり、疾患別内訳は感冒性消化不良症16名、冬期下痢症5名、学童嘔吐症4名、感冒4名、その他5名であった。下痢があった例は15名、浣腸を施行したのは9名であった。ツムラ五苓散エキス坐薬投与例（16名）とツムラ補中益気湯エキス坐薬投与例（18名）の両群間の患者背景に有意な差はみられなかった。ツムラ五苓散エキス坐薬投与16例中、有効12例、やや有効2例、無効2例であり、ツムラ補中益気湯エキス坐薬投与18例中、有効5例、やや有効2例、無効11例であり、両群間に有意な差があった。本剤投与中に副作用は1例もみられず、ツムラ五苓散エキス坐薬は安全で有効な薬剤であると思われた。

考察：小児の嘔吐には、薬剤の経口投与ができず、外来診療では苦慮することが多い。我々は先にツムラ五苓散坐薬を作成し、その有効性について検討し、報告した。今回ツムラ補中益気湯を対照坐薬として二重盲検法でその有効性を検討し、よい結果を得た。本坐薬は作成も容易で、副作用もみられず、今後外来診療の場で多く使用されるものと思われる。